

06 ヘイトスピーチを許さない社会へ（外国人）

（ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、岡澤アキラがお届けします。

5

特定の国の出身者であることや、その子孫であることを理由に排除しようとしたり、危害を加えようとしたりする言動のことをヘイトスピーチと言います。

10

韓国籍の在日朝鮮人3世で、多文化共生教育啓発団体「ハナ」の代表・徐麻弥さんは、国籍や民族の文化の違いを認め合える社会を願う人権講座や講演活動をしています。徐さんが、初めてヘイトスピーチを体験したのは8年前のことでした。

15

【徐さん役】場所は、筑豊の炭鉱労働で亡くなった朝鮮半島出身者の無縁仏を納めた、飯塚市の「ムグンファ堂」前。追悼集会が始まったとき、少し離れたところにいた、一見ふつうの人たち3人が突然、大声を出したのです。

20

「お前から気持ち悪いんだよ、帰りたいければ帰れただろう。」彼らはこちらに迫ってきたながら、憎しみに満ちた表情で叫びました。私は恐怖とショックで頭の中が真っ白になりました。この日本で生まれ育ったのに、追い出されてしまいそうな疎外感、悲しみを肌身で味わいました。

25 でも、そのとき、そばにいた日本の人たちが「なんでそんなこと言うんだ。同じ日本に住む仲間じゃないか」と言い返してくれたのです。今、思い出しただけでも涙が出そうです。

30 (ナレーター)「日本から消えろ」「海に投げ入れろ」などの脅し、昆虫や動物に例える露骨な見下し——。ヘイトスピーチには、人間の尊厳を傷つける暴力性があります。過激な言葉を浴びせられ、屈辱感や無力感に苦しみ、社会との関わりを避ける人もいます。

35 【徐さん役】一方で怖いのは、暴言にあおられ、ルーツの異なる人たちを「差別してもよい存在だ」と刷り込まれる人がいることです。特に、子どもは影響を受けやすいのです。

40 2016年に「ヘイトスピーチ解消法」が施行され、街頭デモは減りましたが、当事者たちへの誹謗中傷はなくなりません。「表現の自由」という筋違いの解釈を盾に、インターネット上では過激さを増しているほどです。

45 「同じ日本に住む仲間じゃないか」。ムグンファア堂で私を守ってくれたあのときの言葉は、活動の支えとなっています。自らのルーツを明かせず、生きづらさを抱えている仲間のためにも、発信を続けていきます。

(918字)